

## 絵本『小わく星ナガクボ』（絵と文 ときさき きよし）を発行

自然科学研究機構国立天文台の渡部潤一氏は、帯原稿で、絵本『小わく星ナガクボ』を次のように紹介されている。

長久保赤水の「天象管蘭鈔」に綴じ込まれている回転円盤星座盤の仕掛けは、いわば日本で初めての星座早見盤といっても過言ではありません。そんな偉大な先人の宇宙への思いが、ナガクボと命名された小惑星につながっていることを多くの次世代を担うこどもたちに、この絵本を通じて知ってもらえることを願っています。この絵本では、長久保が作成した地図がいかに工夫され、役立っていたかに触れています。緯度経度という現在我々が用いている概念をも取り入れ、地図に書き込んだ先駆的な業績、そしてそれを海図にも応用しようとしていたことがわかります。そして世界地図の作成へとつながっていきます。



## 『松月亭寄題詩』・『松月亭寄題詩文』訳註（増子和男編著）を発行

広島大学の久保田啓一教授は「知音知己に恵まれる幸せ」と題して、帯び原稿で『松月亭寄題詩』・『松月亭寄題詩文』訳註を次の通り紹介されている。

主君の来訪という名誉を知友皆が祝福してくれる幸福に身を委ねつつ静かに笑みを浮かべる赤水の温顔が目に見えるようである。勿論、収録されている詩文に詳細な注解を加えられた増子氏のご努力がなければ、赤水の幸せを私が共有することなど叶わなかった。近世の学芸研究に志す者として一番苦労するのは、あらゆる領域に通じる情報伝達の道具として存在する漢文の解読である。漢文を近世の人々と同等以上に読み理解できなければ、彼らの価値観や意識に肉薄することは難しい。日本文学研究者としての限界を痛感せざるを得ないが、中国古典文学の専門家である増子氏によって初めて赤水の真面目さが明らかになったことの意味は大きい。

- ・絵本『小わく星ナガクボ』
- ・『松月亭寄題詩』・『松月亭寄題詩文』訳註 どちらも好評発売中！です。定価 1,100 円（税込）下記のお問い合わせ先からお申し込み下さい。



NAGAKUBO SEKISUI KENSHOKAI Executive Office  
**長久保赤水顕彰会事務局** [お問合せ先 Contact Us]  
 〒318-0103 茨城県高萩市大能341 (佐川春久 方)  
 ☎ 090-1846-6849 ✉ haruhisasagawa@yahoo.co.jp  
 🏠 顕彰会ホームページ <http://nagakubosekisui.org/>

長久保赤水顕彰会では、赤水について知っていただくマンガや専門的な書籍、オリジナル製品などをホームページ【書籍・発行物など】の中でご案内しております。購入方法はご寄付や入会費のお振込の流れと同様です。購入品の郵送料は当会で負担いたします。ホームページ内検索機能もご利用ください。ご入会やご注文の際は、先ずお電話またはメールにてご連絡をお願いいたします。

## 「赤水図」が海城中学高等学校の入試問題に登場

江戸時代に活躍した茨城県高萩市出身の地理学者、長久保赤水（1717～1801）の「赤水図」が、海城中学高等学校の入試問題（社会）に登場しました。新宿区にある海城中学高等学校は有名な進学校（私立御三家の麻布・武蔵・開成に次ぐ私立新御三家〔駒場東邦、巣鴨、海城〕の一角）です。その「伊能図」と「赤水図」を比べた入試問題を紹介します。

国の重要文化財指定に伴い、教科書や参考書掲載に留まらず、レベルの高い入試問題が出されました。茨城県の先人から日本の先人へと、今後全国の中学・高校・大学入試問題に発展していくものと確信しています

### 2023年度一般入試①問題（社会） 海城中学高等学校

<https://www.kaijo.ed.jp/wp-content/uploads/2023/07/d030471c84816e8b2e117b141a18f263.pdf>

#### 問題 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

伊能忠敬といえば、日本で最初に測量をして日本地図を作成した人物として、小学校的教科書に出てきます。しかし、①1821年に完成した《資料1》『大日本沿海輿地全図』（以下、伊能図）は、幕府が国防のために秘蔵とし、人々の目にふれることはありませんでした。一方、江戸時代の後半にもっとも社会に普及したとされるのは、長久保赤水が作成した《資料2》『改正日本輿地路程全図』（以下、赤水図）です。すでに作成されていた各地の地図を編集し、文献調査や、旅人や知人から得た情報をもとに20年以上かけて1779年に完成させました。伊能図の完成より40年以上も前に完成した赤水図は、最初は約4200の地名を記載し、その後少なくとも5回以上、情報を追加しながら出版されました。

#### 問1. 下線部①に関連して、次の問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、伊能図と赤水図を見た生徒と先生の会話です。

生徒：現代の地図とほとんど形が変わらない日本地図を作った伊能忠敬は本当にすごいですね。ぼくが当時の人だったら赤水図より伊能図の方を使いたいと思います。

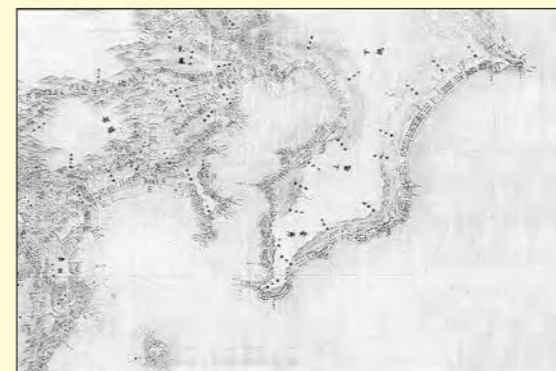
先生：そうですね。ただし赤水図がすべての面で劣(おと)っていたわけではないようです。もし、当時伊能図が人々に公開されていたとしても、伊能図の方が赤水図よりも普及していたとは断言できません。

先生が波線部のように発言するのはなぜでしょうか。《資料1》・《資料2》を参考に、江戸時代後半の人々の暮らしの変化や、伊能図と比べたときの短所にも触れながら、赤水図の長所について150字以内で説明しなさい。

#### 2023年度一般入試①解答（社会）

問1. (1) 精度の高い伊能図と比べて赤水図は、海岸線の形などが実際と大きく異なっている。一方で、伊能図が街道と沿岸部の場所と地名のみを掲載しているのに対し、赤水図は情報を掲載しない地域が少ない。江戸時代後半には、町人や農民による旅行や商人による物流が全国的に活発になり、これらの点が当時の人々に有用であった。

《資料1》伊能図の一部



(国土地理院ウェブサイト「古地図コレクション」  
<https://kochizu.gsi.go.jp/items/167?from=category,10,index-table> より)

《資料2》赤水図の一部



(高萩市・高萩市教育委員会  
 「改正日本輿地路程全図第二版原寸大レプリカ」より)

日本国民や茨城県民の皆さま方にも、江戸時代に日本を代表する先人の一人、長久保赤水先生への再認識を、ぜひ、よろしくお願い致します。

長久保赤水顕彰会会報  
 発行責任者 佐川春久  
**飛耳長目**  
 赤水 長久保  
 顕彰会  
 NAGAKUBO SEKISUI KENSHOKAI

令和6年2月18日  
 会報第34号